

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	国語(書写)
----	--------

発行者 の番号 ・略称	教科書 の記号 ・番号	教科書名	調査結果の概要
2 東書	書写 701	新しい書写一・二・三年	<ul style="list-style-type: none"> ・ A B判。初心者でも書きやすいように様々な工夫がされている。また、イラストや資料が見やすい。ただ、教室の机に置いて手本として見ながら習字をすると、狭く、やりづらい。 ・「書く」力をつけていくことを考えて作成されている。 ・振り返り「まとめ」と「書写テスト」で確認・評価できる構成となっている。 ・基本の「点画」の書き方を振りかえるところで、「とん」「ぴたっ」「すう」と書かれており、運筆を生徒自身がイメージしやすく、楽しく学習できる。 ・1年の行書の基礎では1文字「東・二・十・口・人」と簡単な字を多く演習に使用し、段階的に学習できるように工夫されている。 ・「いろは歌」については、毛筆楷書のみとなっている。 ・50音の仮名の楷書・行書共に「あいうえお」表記になっており、違和感を覚える。 ・日常生活の中で役立つ「書写活用ブック」があり、封筒の書き方や原稿用紙の使い方、入学願書など実生活に役に立つ内容が組み込まれている。 ・単に、毛筆・硬筆で手本を見て美しく書くという感じではなく、「文字」そのものに着目させ、幅広く、楽しい内容が多い。 <p>(例) 見やすいノートのとり方・本のポップ・ポスター</p>

<p>15 三省堂</p>	<p>書写 702</p>	<p>現代の書写一・二・三</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に生きる書写の力を身につけるべく、自分自身が書く文字をよりよくするために、①学習したことを自分の文字に取り入れる。②相手や目的・場面を考えて書く。③文字文化への理解を深める。の3本柱で構成されている。 ・基礎編と本編・資料編から構成され、直接教科書に書き込めるページがある。また、1年時と3年時での自分の字を残し、比較できるように、また、自分自身で目標や達成感を味わわせられる工夫が見られる。 ・手本の説明がなく、生徒の気づきはあるが、教師側は指導しにくい。例えば、P32・33のはがきの書き方においては、P30・31の振り返り・応用だと思われるが、手立てが書かれていない。 ・B5判で持ち運びしやすく、手本として使うことができる。 ・1年では楷書・行書の毛筆が掲載されている。 ・「いろは歌」は楷書と行書で構成されている。 ・2年では楷書・行書の使い分けで「メモ・お礼状」など、トライやる・ウィークなどと連携して使えるものもある。 ・他教科での活かし方の工夫例が少ない。 ・硬筆では、都道府県名を行書でなぞり書きなど楽しみながら硬筆で漢字の行書が学習できるようになっている。 ・多様な文字・効果的な文字の例が少ない。 ・資料には、時候のあいさつなどが入り、実用的なものが多いが、学習の深まりとしては、乏しい。 ・色使いがよい。
-------------------	---------------	-------------------	--

<p>17 教出</p>	<p>書写 703</p>	<p>中学書写</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年時には、小学校からの系統立てた行書の基礎的な書き方を学習させるなど、適切に運筆する能力を養う意図がみえる。 ・筆の運びはみてわかりやすく、自分で学べるページ構成となっている。 ・A B判で大きく、毛筆のページが多く、大きな紙面で見やすく、扱いやすい。きれいな画像・写真が多く、わかりやすい。 ・机上に置いて習字をさせることを考えたらお手本としては大きすぎる。 ・書き順や中心線も書かれ、書くときにバランスなど大事なことを意識して書くことができる。 ・「書式の教室」には、他教科の学習活動や日常生活の中で活かせる工夫がある。(年賀状、手紙の書き方、入学願書など) ・本の帯・ポップ作りなど国語や他教科の学習活動と連携して取り組めるような工夫がある。 (竹取物語・読書→本の帯・ブックトーク、都道府県名を美しく書く) ・日常の中に書く文化を入れ、人生を豊かにする工夫がある。(短冊、色紙、平和教育(千羽鶴)) ・ノートの書き方を確認するページが最初であり、これから中学生生活を始める1年にとっては他教科の授業で生かしやすい。 ・「振り返ろう」の項目が終わりにあり、振り返りとして取り組みやすい。 ・書写テストがあり、学びを確認できる。 ・資料が多い。
------------------	---------------	-------------	---

<p>38 光村</p>	<p>書写 704</p>	<p>中学書写一・二・三年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書写ブック（28 ページ分）があり、直接書き込める。何を認識することが「文字」そのものを理解することになるのか、どのようにして整った文字は生みだされるのかが、実際に手を動かすことで身につけさせようという意図が伝わる。 ・教科書に重量感がある。教科書とワークを兼ね備えた構成となっている。 ・学年ごとの構成ではなく、「読みやすく書くための楷書」「読みやすく速く書くための行書」「文字を使い分ける」の3つの内容の中で学年が分かれている構成である。 ・単にお手本としてだけでなく、日常生活に活かせる内容になっている。 ・それぞれの手本に運筆の写真提示があり、穂先の位置、運筆の仕方がわかりやすい。（P77） ・QRコードがあり、動画を活用できる。 ・教師の準備として、「お手本くん」があり、生徒の名前の手本などを簡単に作成することができる。 ・春夏秋冬の「季節の言葉」を大事にした教材が多い。 ・B5判で運びやすく、机上に置いての習字の練習はしやすい。 ・写真やイラストなどが、鮮明でない。
------------------	---------------	-------------------	--